

両陛下こどもの日にちなみ御訪問

〔両陛下と竹島の子供たちがオンラインで交流〕

令和3年5月12日(水)、三島竹島学園の子供たちが、「こどもの日にちなみ御訪問」で天皇皇后両陛下とオンラインで交流させていただきました。

三島村の学校は、ICTを活用した遠隔授業や交流学习等に力を入れており、その中でも三島竹島学園は、村内の他校のみならず、県内外の学校や台湾など外国の学校ともオンラインで交流を行っています。

このような取組が認められて、三島村が両陛下との県内初のオンライン交流の訪問先選ばれ、代表で竹島の子供たちが貴重な体験ができたことは、三島村の歴史に残る出来事でした。

御訪問は、村長あいさつ、教育長による三島の教育概要の説明に始まり、校長先生による学校概要説明、教頭先生による授業風景等の紹介、そして、子供たちとの御懇談という流れで進みました。

両陛下は「三島村では新型コロナウイルスは大丈夫ですか。」と御心配くださり、また、二年前に御覧いただいた島の中学生によるジャンベ演奏を覚えてみてくださいました。

子供たちとの御懇談では、「三島の海にはどんな生き物がいますか。」と三島村の自然について質問されたり、「他の学校の児童と仲良く授業ができてよかったですね。」と遠隔合同学習の成果に感想を述べられたりし

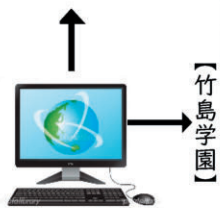
ました。「しおかせ留学制度」についても、「子供たちが自然豊かな場所でも過ごせるのはよいことですね。」と全国各地の子供たちが三島村の自然の中で様々な体験をしていることに関心を寄せられました。

子供たちは、両陛下が優しく話しかけてくださったことに、「風の海のように穏やかなお人柄だった。自分の人生の中で大切な時間となった。」ととても感激した様子でした。

三島村は、2020年度の国勢調査で15歳未満の子供たちの占める割合が全国1位になりました。子供たちが村の元気と活力の源となっています。今回のこの貴重な体験が励みとなって、ますます学校の学習活動や地域の活動などを頑張ってください。



【赤坂御所】



【竹島学園】



『ありがとう』でつながる地域と子ども会

(中之島)

面積、人口ともに十島村で最大の島、中之島。標高979mの御岳は、「トカラ富士」と呼ばれ、晴れた日には、その雄大な姿を見ることができ

ます。活火山であるため、天然の温泉施設が整備されていることもこの島の特徴です。県の天然記念物に指定されているトカラ馬は、愛くるしい姿を見せ、コロナ禍以前は、牧場の近くの九州最大級の60センチ反射望遠鏡を有する天文台では、子ども会での天体観測を実施していました。歴史民俗資料館では、十島村の歴史を学ぶことができます。こうした環境の中で、子供たちは地域と共に成長し、多くの事を地域と一体となって学んでいます。



釣り大会前の海岸清掃

7月11日(日)に、七ツ山海岸で行われた「釣り大会」では、まず海岸清掃を行いました。子ども会が企画するイベントですが、事前に、目的地までの藪はらいやごみ収集のための袋の準備など、自発的に地域の方々が動いて準備してくださいました。そうした中で、子ども会による清掃活動を行い、気持ちよく活動することができました。釣りを楽しむだけでなく清掃ボランティアを行うこ

とで改めて気づく自然の美しさと誰かの支えによって保たれている「ありがとう」を学ぶことができます。

「いきいき教室」とのポッチャ大会

11月27日(土)には、「いきいき教室」の高齢者の皆さんと感染対策をとりながらニユースポーツである「ポッチャ」を体験しました。



ポッチャ大会

ポッチャの球をお手玉に変えた簡易ルールで行い、小学生から高齢者の方々まで一緒になって楽しめる時間になりました。競技を通じて、互いに会話したり、力を合わせて作戦を練ったりする中で交流を深め、お互いを更に知り合える機会となりました。高齢者から経験に支えられた知恵を、子供から元気と若さをお互いにもらい、「ありがとう」の気持ちを通わせる時間になりました。

この他、校内持久走大会では、地域の飛び入り参加のランナーが励ましの伴走をしたり、防波堤に「がんばれ」の文字で児童・生徒を励ましてくださったりと、学校行事にも地域愛を感じる瞬間が多々あります。

コロナ禍の今だからこそ、このようなお互いのレジリエンスを感じあえる地域との関係が、これからも続いてほしいと願っています。

女性の方で 地域活性化を

ふるさとを興す保健・福祉学習大会及び組織・教育・食料・環境学習大会

日置地区地域女性団体連絡協議会

8月開催予定であった本大会が12月9日(木)、日置市中央公民館で開催されました。感染防止対策のため、参加者を100人以下に絞りました。

保健・福祉学習大会

県民総合保健センター保健師の中馬みどり先生の講演がありました。

「楽しく！元気に！いつまでも若々しく過ごすために」というテーマで、健康づくりのための筋膜ケアについて教えていただきました。凝り固まった体をほぐし、コリ、むくみなどの不調を解消し体全体の機能を高める運動を皆で行いました。



筋膜ケアを指導する中馬先生

組織・教育・食料・環境学習大会

「誰もが明るくいいきいきと暮らせる環境づくりのために」のテーマでお二人の方が提言を行いました。

❖吹上地域各種女性団体連絡協議会長

横山公代さん

吹上地域の活性化を図るため女性の力で「明るい農村」(食堂)を運営しているという発表でした。開店まで試行錯誤しながら課題を乗り越えていった話や、地域の方々との交流によって、会員との絆が深まっている

という話に参加者は熱心に聞き入っていました。会員のやりがいや生きがいづくりにつながっているという話には多くの人が頷いていました。

❖羽島地区婦人部員 鮫島百桃子さん

海の環境問題への取組がメディア等でも紹介されている鮫島さんの発表でした。マーメイドパフォーマーの仕事を通して、SDGs14「海の豊かさを守ろう」を羽島地区婦人部と連携し、地元根差した活動として推進していました。参加者は映像から流れる美しい羽島の海を後世に残していかなければならないという思いを強くしました。今後、各地域女性連ではSDGsを意識した取組が増えていくのではないのでしょうか。

学びを続ける女性連

意見交換では女性連の役割について活発な意見が出ました。

❖コロナ禍の不安



特色ある提言をする発表者

定な時だからこそ地域社会の中で女性連にできることは何かを問い続け、そのためにも学びを続ける女性連であってほしいと思います。

第2弾

武家屋敷群「麓」を歩く

日置地区文化財担当者等研修会

本研修会を11月17日(水)、実施しました。

今回は日本遺産「薩摩の武士が生きた町」武家屋敷群「麓」を歩くの第2弾として、入来麓と蒲生麓をたどりましました。

入来麓は重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

入来郷土館の方の案内で、清色城跡や武家屋敷門(茅葺門)、旧増田家住宅などを見学し、当時の時代背景や、貴重な歴史史料「入来文書」の説明を受けました。



旧増田家住宅

日本一の巨樹「大クス」が見守る武家門のまち蒲生麓は始良市教育委員会文化財係の職員に丁寧説明していただき、理解を深めました。御飯屋門や多くの武家門が残されており、整然とした美しい景観の街並みを感じました。

武家屋敷群「麓」を歩きながら、その当時、薩摩の武士達が農耕に従事し、平和な世にありながら、武芸の鍛錬に励んでいた往時に思いを馳せることでした。



日本一の大クスの前で

中止

日置地区生涯学習推進大会・いちき串木野市生涯学習大会

第3回地区振興会理事会(1月14日)で、来たる本大会(2月5日)の開催について協議が行われましたが、新型コロナ感染拡大防止のため、理事会の方針と会長(中屋謙治市長)の判断により、今年度の地区生涯学習推進大会は中止とすることが決定しました。

右記以外の中止等になった行事(9月以降)

- ❖日置地区公民館経営研究会【中止】
- ❖鹿児島地区子ども会大会、指導者・育成者研修会(吹上大会)【書面開催】
- ❖県PTA活動研究委嘱公開(いちき串木野大会)【書面開催】

受賞おめでとうございます

★地区社会教育優良個人・団体 ※敬称略

- ★日置市関係
- 福宿 玲子 ○金井 トキ子
- 丸山 淳子 ○中西 小夜子
- 南 さよ子 ○下野 久雄
- こけけ読み聞かせたい
- ★いちき串木野市関係
- 久木野 公子 ○中村 純照
- 溝添 勇 ○生福壮友会
- 串木野さのさ保存会

編集後記

当たり前を積み重ねると特別になる。昔、NHKテレビ「プロフェッショナル」で聞いた言葉。同じことを繰り返しながらも、少しでも進歩させる熱意があつてこそ、当たり前前の積み重ねがいつか実を結ぶ。「いもこじ」は第50号を迎えた。進歩し続ける情報誌に努めたい。(事務局 田中)